

萩市企業景況調査

DI方式

平成22年 7月～ 9月期 実績
平成22年10月～ 12月期 予測

DI (ディフュージョン・インデックス) 方式とは?

DIは各調査項目について判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値は景気の上向き傾向(「良い」)の回答割合が多いことを示し、マイナスの値は景気の下向き傾向(「悪い」)の回答割合が多いことを示す。

◎DI = (増加・好転など「良い」の回答割合) - (減少・悪化など「悪い」の回答割合)

※設備投資は割合(%)

《調査機関》萩商工会議所

業況、業種間でバラツキ。マイナス幅縮小。 —先行きに不安感—

景況の概要

平成22年10月実施の景況調査の集計結果は以下のとおり。(調査対象企業：萩市内60社、回収率95%)

生産・売上 前期比DIは夏場需要などでサービス業・卸売業が増加したものの、建設業は減少した(全業種平均+10.5ポイント)。前年同期比では小売業・観光関連業などが減少。今後(10～12月期)の見通しでは、観光関連業(+25.0ポイント)・製造業(+22.2ポイント)などが増加、小売業(▲20.0ポイント)・建設業(▲20.0ポイント)などが減少するなど業種間でバラツキが見られる(平均+1.8ポイント)。

収益 収益(経常利益)も生産・売上と同様に、業種間でバラツキが見られる。総じて、厳しいもののマイナス幅は縮小した。消費者の節約志向に加え、同業他社との価格競争などで利益が圧迫されている。今後の見通しでは、観光関連業・製造業・サービス業が増加すると予想(平均▲3.5ポイント)。

資金繰り 実績・見通しとも厳しいが、サービス業が好転している。

従業員数 サービス業・観光関連業が人員不足、卸売業・小売業が人員に過剰感があるとしている。

経営上の問題点 ①需要の停滞 61.1% ②同業他社との競争激化 14.8% ③設備・店舗の老朽化 5.6%の順などとなっているほか、人材の確保難・後継者問題などが挙げられている。

今後の業界動向 各業界の景気見通しは、先行き不安感などから全業種で悪化(平均▲56.1ポイント)すると予想。特に、製造業・観光関連業などの停滞予想が目立っている。

景況に関する生の声 ■建設業 先行き不透明(総合建設)。今期は仕事あるが、来期は公共・民間工事とも厳しいと思われる(電気工事)。■製造業 ますますジリ貧です(製材)。消費落ち込みで商品ダブつき気味。処理のため安売り乱売が行われ、自分の首絞める悪循環に(水産加工)。9月に入り、売上が観光土産品店等で落ち込み、前年比マイナスとなる(水産加工)。■小売業 一品単価の下落(大型店)。宝飾品の売上が落ち込んでおり、不況の中で高額品の購買動向も変化している(宝飾店)。■サービス業 競争見積り額が、底値をついている(タクシー・バス)。■観光関連業 観光客数が減っている(工房)。

項目 / 業種		建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	観光関連業	平均	前年平均	前々年平均
生産・売上	前期比	▲30.0	0.0	30.0	0.0	60.0	0.0	10.5	▲5.3	▲8.6
	前年同期比	0.0	▲33.3	0.0	▲70.0	30.0	▲37.5	▲17.5	▲45.6	▲39.7
	22年10月～12月期見通し	▲20.0	22.2	▲10.0	▲20.0	20.0	25.0	1.8	▲7.0	▲13.8
収益	前期比	▲10.0	▲22.2	20.0	10.0	50.0	▲12.5	7.0	▲17.5	▲25.9
	前年同期比	0.0	▲11.1	10.0	▲20.0	30.0	▲50.0	▲5.3	▲36.8	▲47.4
	22年10月～12月期見通し	▲10.0	11.1	▲20.0	▲30.0	10.0	25.0	▲3.5	▲8.8	▲8.8
資金繰り	前期比	10.0	▲11.1	▲10.0	0.0	20.0	▲50.0	▲5.3	▲26.3	▲36.8
	22年10月～12月期見通し	▲30.0	▲11.1	▲10.0	▲20.0	0.0	▲25.0	▲15.8	▲21.1	▲28.1
従業員数	22年9月末	0.0	0.0	▲20.0	▲10.0	50.0	12.5	5.3	▲7.0	▲8.6
設備投資	(実績)	10.0	22.2	0.0	0.0	20.0	25.0	12.3	7.0	13.8
	(計画)	10.0	0.0	10.0	10.0	20.0	0.0	8.8	7.0	13.8
業界動向		▲40.0	▲66.7	▲60.0	▲60.0	▲50.0	▲62.5	▲56.1	▲50.9	▲77.6